

## 研究業績一覧

### 著書・共著書・訳書

- 藤田黎明・喜多村和之編（1963）『科学技術文献略語辞典』ヒラカワ文献セミナー。
- コロンビア大学紛争事実調査委員会編／喜多村和之訳（1970）『コロンビア大学の危機：コックス・レポート』東京大学出版会。
- P・G・アルトバック著／喜多村和之訳（1971）『政治のなかの学生：国際比較の視点から』東京大学出版会。
- 喜多村和之編（1971）『大学・学生問題文献目録』民主教育協会。
- 喜多村和之編（1974）『大学院・研究体制に関する文献目録（大学研究ノート11号）』広島大学大学教育研究センター。
- 喜多村和之著（1976）『カーネギー高等教育審議会：その業績と評価』民主教育協会。
- M・トロウ著／天野郁夫・喜多村和之訳（1976）『高学歴社会の大学：大衆化の理想と現実』東京大学出版会。
- 喜多村和之・天野郁夫・湯浅信之著（1978）『諸外国の大学における国際交流—特にアメリカ合衆国を中心として：「大学の国際化に関する総合的研究 第1次海外調査団（欧米班）報告書」（大学研究ノート33号）』広島大学大学教育研究センター。
- W. K. Cummings・Ikuo Amano・Kazuyuki Kitamura 編（1979）『Changes in the Japanese university：A comparative perspective』Praeger.
- 喜多村和之著（1980）『誰のための大学か：大学教育の原理と方法』日本経済新聞社。
- 喜多村和之著（1980）『諸外国の大学における外国人教授の任用：制度と実態—（大学研究ノート48号）』広島大学大学教育研究センター。
- ロンドン大学教育研究所大学教授法研究部編／喜多村和之ほか編訳（1982）『大学教授法入門』玉川大学出版部。
- 慶伊富長編（1984）『大学評価の研究』東京大学出版会。
- 喜多村和之著（1984）『大学教育の国際化：外からみた日本の大学』玉川大学出版部。
- D・リースマン著／喜多村和之訳（1986）『高等教育論：学生消費者主義時代の大学』玉川大学出版部。
- 喜多村和之著（1986）『学生消費者の時代：アメリカの大学「生き残り」戦略』リクルート出版部。
- 喜多村和之著（1986）『高等教育の比較的考察：大学制度と中等後教育のシステム化』玉川大学出版部。
- 天野郁夫・市川昭午・潮木守一・喜多村和之著（1987）『教育は「危機」か：日本とアメリカの対話』有信堂高文社。
- 喜多村和之著（1987）『大学教育の国際化：外からみた日本の大学（増補版）』玉川大学出版部。
- J・B・L・ヘファリン著／喜多村和之・石田純・友田泰正訳（1987）『大学教育改革のダイナミックス』玉川大学出版部。
- 喜多村和之編（1988）『大学教育とは何か』玉川大学出版部。
- アーネスト・L・ボイヤー著／喜多村和之・館昭・伊藤彰浩訳（1988）『アメリカの大学・カレッジ』

リクルート出版。

喜多村和之著（1989）『学校淘汰の研究：大学「不死」幻想の終焉』東信堂。

片岡徳雄・喜多村和之著（1989）『大学授業の研究』玉川大学出版部。

D・W・スチュワート・H・A・スピル著／喜多村和之ほか訳（1989）『学歴産業（ディプロマ・ミル）：学位の信用をいかに守るか』玉川大学出版部。

喜多村和之著（1990）『大学淘汰の時代：消費社会の高等教育』中央公論社。

喜多村和之編（1990）『大学教育とは何か（第2刷）』玉川大学出版部。

喜多村和之ほか著（1991）『大学評価の理論的検討』広島大学大学教育研究センター。

NEASC 編／喜多村和之ほか訳（1992）『大学・カレッジ自己点検ハンドブック：米国ニューイングランド地区「基準認定（アクレディテーション）の手引」より』紀伊國屋書店。

喜多村和之著（1992）『アメリカの教育：「万人のための教育」の夢』弘文堂。

喜多村和之著（1992）『大学評価とはなにか：アクレディテーションの理論と実際』東信堂。

喜多村和之著（1993）『大学評価とはなにか：自己点検・評価と基準認定（アクレディテーション）（新版）』東信堂。

喜多村和之著（1994）『現代アメリカ高等教育論：1960年代から1990年代へ』東信堂。

喜多村和之著（1995）『大学への旅：体験的比較大学考』紀伊國屋書店。

市川昭午・喜多村和之著（1995）『現代の大学院教育』玉川大学出版部。

喜多村和之著（1995）『人は学ぶことができるか：教師と弟子』玉川大学出版部。

喜多村和之編（1996）『高等教育カリキュラム改編と社会的評価に関する総合的研究：大学設置基準の大綱化を焦点として』国立教育研究所。

NEASC編／喜多村和之ほか訳（1996）『アクレディテーションのための実地視察の手法：ニューイングランド地区基準協会「実地視察団マニュアル」から』大学基準協会。

喜多村和之著（1996）『学生消費者の時代：バークレイの丘から（新版）』玉川大学出版部。

アーネスト・L・ボイヤヤー著／喜多村和之・館昭・伊藤彰浩訳（1996）『アメリカの大学・カレッジ：大学教育改革への提言・改訂版』玉川大学出版部。

2010大学改革研究会編（1996）『大学改革2010年への戦略：将来構想の具体化“規制緩和”と改革シナリオ』PHP研究所。

江上芳郎・喜多村和之編（1997）『戦後大学・学生問題文献目録：1945～1967：大学・学生問題文献目録：改訂・増補：1965～1971』日本図書センター。

地域科学研究会高等教育情報センター編（1997）『新・高等教育のデザインと政策展開』地域科学研究会。

クラーク・カー著／喜多村和之監訳（1998）『アメリカ高等教育の歴史と未来：21世紀への展望』玉川大学出版部。

クラーク・カー著／喜多村和之監訳（1998）『アメリカ高等教育試練の時代：1990-2010年』玉川大学出版部。

H・R・ケルズ著／喜多村和之・館昭・坂本辰郎訳（1998）『大学評価の理論と実際：自己点検・評

価ハンドブック』東信堂。

喜多村和之著（1999）『現代の大学・高等教育：教育の制度と機能』玉川大学出版部。

喜多村和之編（1999）『高等教育政策の形成と評価に関する総合的研究』国立教育研究所。

国立教育研究所・共同研究プロジェクトチーム編（2000）『これからの研究開発と人材養成等の諸政策の連携・統合に関する調査研究』国立教育研究所。

M・トロウ著／喜多村和之編訳（2000）『高度情報社会の大学：マスからユニバーサルへ』玉川大学出版部。

喜多村和之著（2000）『世界のなかの日本の私学』私学高等教育研究所。

喜多村和之著（2000）『高等教育と政策評価』玉川大学出版部。

喜多村和之・濱名篤著（2000）『最近の高等教育政策と私学：私学の立場からみた「独立行政法人化」と「第三者評価機関」：第1回公開研究会から』私学高等教育研究所。

私学高等教育研究所編（2001）『新時代を迎えるアメリカ高等教育最新現地報告：カリフォルニアの公・私大と大学評価競争：第3回公開研究会から』私学高等教育研究所。

喜多村和之著（2001）『現代大学の変革と政策：歴史的・比較的考察』玉川大学出版部。

米澤彰純・喜多村和之著（2002）『大学評価の国際的展望と日本の私学評価のあり方：第8回公開研究会から』私学高等教育研究所。

喜多村和之著（2002）『大学は生まれ変わるか：外からみた日本の大学』中央公論新社。

喜多村和之著（2007）『現代大学の変革と政策：歴史的・比較的考察（オンデマンド版）』玉川大学出版部。

喜多村和之著（2008）『大学教育の国際化：外からみた日本の大学（増補版）』玉川大学出版部。

片岡徳雄・喜多村和之著（2008）『大学授業の研究（オンデマンド版）』玉川大学出版部。

喜多村和之著（2009）『学生消費者の時代：パークレイの丘から（新版・オンデマンド版）』玉川大学出版部。

喜多村和之・市川昭午著（2010）『高等教育と政策評価』NetLibrary。

喜多村和之著（2010）『現代の大学・高等教育：教育の制度と機能』NetLibrary。

喜多村和之著（2010）『現代大学の變革と政策：歴史的・比較的考察』NetLibrary。

## 論文ほか

### 1960年

〔書評〕ヘルムート・クーン「ソクラテス」：形而上学の起源に関する試み1959』『哲学誌』3号，87-91頁。

### 1962年

「徳は教えられるか：ソフィストにおける徳育可能論の根拠について」『理想』354号，74-87頁。

### 1963年

「海外雑誌新着速報」『科学技術文献サービス』6号，12-13頁。

「増加する世界の科学技術文献」『科学技術文献サービス』6号，18-27頁。

「日本の科学技術情報誌」『科学技術文献サービス』7号, 16-17頁。

「国際ドキュメンテーション連盟 (F.I.D.)」『科学技術文献サービス』8号, 24-26頁。

#### 1964年

「〈見学記〉日本科学技術情報センター」『科学技術文献サービス』9号, 14-15頁。

「世界の科学技術逐次刊行物」『科学技術文献サービス』9号, 42-43頁。

「母永眠・お母さんへ・挽歌」『総月抄』40-42頁。

#### 1965年

「オランダの文献情報活動」『現代の図書館』3巻1号, 32-41頁。

「ドキュメンテーションとはなにか」『現代の図書館』3巻2号, 105-112頁。

「オランダの高等教育問題：高等教育法の改正と大学拡充対策」『レファレンス』15巻12号, 73-93頁

「日本の科学技術雑誌の書誌的分析」『科学技術文献サービス』13号, 6-9頁。

「ドキュメンテーションの雑誌情報源」『科学技術文献サービス』14号, 6頁。

「マイクロフィッシュに関する資料」『科学技術文献サービス』14号, 13頁。

#### 1966年

「図書館サービスの近代化：デルフト工科大学図書館における図書館サービスの機械化の事例について」『図書館研究シリーズ』10号, 37-54頁。

「ヨーロッパ統合への教育的側面：EECの「ヨーロッパ人学校」」『レファレンス』16巻8号, 102-110頁。

「ベルギーの大学拡充問題」『レファレンス』16巻3号, 106-108頁。

「近代科学を生みだした古典 (1)」『科学技術文献サービス』16号, 11-15頁。

「近代科学を生みだした古典 (2)」『科学技術文献サービス』17号, 11-23頁。

「“偉大なる業績”：「ザ・タイムズ紙」の日本紹介」『IDE現代の高等教育』54号, 20-23頁。

#### 1967年

「ユネスコの図書館計画」『レファレンス』17巻12号, 90-93頁

「国際学生運動とCIAの財政援助問題」『レファレンス』17巻5号, 107-111頁

アルトバック P.G., 喜多村和之訳「学生と政治活動」『厚生補導』16号, 49-52頁

「国際学生会議 (ISC) 憲章 (資料)」『厚生補導』16号, 53-58頁

「東南アジアにおける学生運動」『厚生補導』16号, 35-41頁

#### 1968年

「今月の読書 ギリシア」『月刊百科』67号, 22頁。

「イギリスにおける大学行政への学生参加」『レファレンス』18巻11号, 102-108頁。

「激化する世界の学生運動：主要海外論調」『レファレンス』18巻6号, 120-122頁。

「アジアの図書館計画：図書館サービス機構のナショナル・プランニング」『レファレンス』18巻4号, 87-112頁。

Peterson R.E., 喜多村和之訳「アメリカの学生類型とスチューデント・レフト (外国文献紹介：

学生運動1)』『厚生補導』27号, 70-74頁。

Pinner F.A., 喜多村和之訳「西ヨーロッパの学生組織:伝統型と逸脱型(外国文献紹介:学生運動2)』『厚生補導』28号, 71-76頁。

Altbach P.G., 喜多村和之訳「発展途上諸国における学生運動(外国文献紹介:学生運動3)』『厚生補導』29号, 56-60頁。

「アメリカにおける大学・学生問題研究の動向:文献展望(外国文献紹介:学生運動4)』『厚生補導』31号, 69-77頁。

「スチューデント・パワー 4インドネシア 夢さめた学・軍の蜜月』『朝日ジャーナル』10巻29号, 31-37頁。

#### 1969年

「ユネスコの図書館計画:日本のナショナル・プランのために』『ひびや:東京都立中央図書館報』11巻3号, 1-7頁。

「アメリカにおける大学改革の動向:最近の大学改革案をめぐって』『レファレンス』19巻7号, 36-73頁。

アルトバック P.G., 喜多村和之訳「国際学生運動(外国文献紹介:学生運動6)』『厚生補導』33号, 55-60頁。

ピータースン R.E., 喜多村和之訳「組織化された学生反抗の調査:アメリカの大学における学生の組織的プロテストに関する研究(海外文献紹介:学生運動7)』『厚生補導』34号, 58-64頁。

「資料・学生騒乱:経済・社会への影響(OECDレポート)』『自由』11巻5号, 94-99頁。

#### 1970年

「イギリス一頭脳集団の形成へー放送大学の真に目ざすもの』『時事解説(1970年8月11日)』7427号, 7-8頁。

「アメリカのハイスクール紛争』『厚生補導』45号, 54-60頁。

アルトバック フィリップ G., 喜多村和之訳「アメリカの大学院学生に関するノート〔'69.7大学院教育セミナー発表の要約)』『厚生補導』47号, 48-54頁。

「大学改革現地報告(バークレイ, コロンビア, ハーバード)』『自由』12巻4号, 154-165頁。

「(印象記)アメリカの大学と大学人』『IDE現代の高等教育』102号, 30-33頁。

#### 1971年

「大学改革の理論と方法:一日米比較の視点から一上』『レファレンス』21巻1号, 19-37頁。

「大学改革の理論と方法:一日米比較の視点から一下』『レファレンス』21巻2号, 69-92頁。

「大学改革の動向に関する予備調査:改革提案の数量的分析』『レファレンス』21巻6号, 85-99頁。

「1968~70年におけるアメリカの学園紛争に関する研究(海外文献紹介)』『厚生補導』57号, 52-64頁。

「アメリカにおける青少年の社会参加:ホワイトハウス主催・青少年会議について』『社会教育』26巻10号, 16-19頁。

「私の「大学史」への関心』『大学史研究通信』4号, 8-9頁。

「『大学改革の力学』 J.B.Lon Hefferlin : Dynamics of Academic Reform (Jossey-Bass, Inc. San Francisco. 1969. 240p)」『大学史研究通信』 4号, 61-62頁。

#### 1972年

- 「消え去った“圧力” 力去大学改革はどこまで進展した?」『時事解説 (1972年9月7日)』 7925号, 12-16頁。
- 「後退した東大改革案:その内容と問題点を検討する」『時事解説 (1972年12月5日)』 7960号, 2-8頁。
- 「大学改革の進展状況に関する調査:日・米比較」『レファレンス』 22巻4号, 58-85頁。
- 「大学改革の可能性に関する試論 (1):大学史の経験から」『大学史研究通信』 5号, 30-37頁。
- 「アジアにおける高等教育の役割:ユネスコ主催マニラ会議に参加して」『IDE現代の高等教育』 127号, 14-17頁。

#### 1973年

- 「オリエンテーションの考え方について:アメリカの場合」『厚生補導』 83号, 20-26, 37頁。
- 「アメリカにおける「大学研究」の展開:序説」『大学論集』 1号, 20-31頁。
- 「Institutionとしての大学」『大学史研究通信』 7号, 4-5頁。
- 「(文献紹介) イギリス大学人のみたアメリカの高等教育」『IDE現代の高等教育』 137号, 51-60頁。

#### 1974年

- 「変革を迫られる大学制度:高等教育システムの発展段階と適応 (世界の教育改革4)」『季刊教育法』 12号, 52-62頁。
- 「アメリカの大学院教育をめぐる諸問題:〈黄金時代〉から80年代へ」『国立教育研究所紀要』 84号, 79-94頁。
- 「アメリカ大学院における成功と危機:《黄金時代》から1970年代へ」『大学論集』 2号, 16-30頁。
- 「Accreditationの受容過程に関する日米比較」『大学史研究通信』 8号, 29-37頁。
- 「(書評) 激動する社会と大学」『IDE現代の高等教育』 146号, 49頁。
- 「カーネギー高等教育審議会:その業績と評価 第1回 成立と背景」『IDE現代の高等教育』 152号, 58-65頁。
- 「カーネギー高等教育審議会:その業績と評価 第2回 カーネギー・レポートの基本的性格」『IDE現代の高等教育』 153号, 35-42頁。
- 「大学と自動車学校の間」『IDE現代の高等教育』 147号, 34-39頁。
- 「〈成功〉ゆえの〈危機〉:アメリカ大学院教育が当面する問題一」『IDE現代の高等教育』 151号, 15-20頁。

#### 1975年

- 「大学—自己変革の可能性と限界」清水義弘編『高等教育の大衆化』 第一法規, 139-172頁。
- 「戦後の学制改革と設置認可行政:新制大学の設置に関する指導原理の展開と変容」天城勲・慶伊富長編『大学設置基準の研究』 東京大学出版会, 102-122頁。
- 「カーネギー高等教育審議会:その業績と評価 第3回 万人のための高等教育?」『IDE現代の高等教育』 154号, 55-62頁。

「カーネギー高等教育審議会：その業績と評価 第4回 カネの問題(1)」『IDE現代の高等教育』155号, 51-57頁。

「《苦難の時代》の大学：1975年初頭のアメリカのキャンパスを巡って一」『IDE現代の高等教育』159号, 45-51頁。

「カーネギー高等教育審議会：その業績と評価 第5回 カネの問題(2)」『IDE現代の高等教育』160号, 46-53頁。

「カーネギー高等教育審議会：その業績と評価 第6回 カネの問題(3)」『IDE現代の高等教育』161号, 53-60頁。

「カーネギー高等教育審議会：その業績と評価 第7回 高等教育は何のために」『IDE現代の高等教育』162号, 45-51, 26頁。

「カーネギー高等教育審議会：その業績と評価 第8回 評価と結論」『IDE現代の高等教育』163号, 56-63頁。

#### 1976年

「“万民のための教育”の夢と逆説」『総合研究アメリカ⑥ 思想と文化』61-95頁。

「序論 研究計画の概要」『大学研究ノート』26号, 9-13頁。

「第I部 機関調査：大学の管理運営機関に関する基礎調査」『大学研究ノート』26号, 15-41頁。

「第IV部 要約と結論」『大学研究ノート』26号, 109-117頁。

「高学歴社会：アメリカの場合」『大学研究ノート』25号, 30-33頁。

「高等教育の将来システムに関する日米比較的考察 (1)：I 学校教育 (formal education) の普遍化と高学歴化」『大学論集』4号, 17-33頁。

「日本のマス高等教育の未来」『IDE現代の高等教育』173号, 17-23頁。

#### 1977年

「幻の〈アメリカ合衆国大学〉存在しなかった歴史の重み」『UP』6巻7号, 1-6頁。

「ニューヨーク市立大学の悲劇—大学大衆化の実験は破たん」『エコノミスト』55巻36号, 58-61頁。

喜多村和之・友田泰正「大学の組織運営に関する研究」『大学研究ノート』31号, 34-39頁。

「Postsecondary Educationの概念について」『大学論集』5号, 69-90頁。

「「参加」と「効率化」のあいだ：大学の組織・運営に関する全国調査から」『IDE現代の高等教育』175号, 75-82頁。

「アメリカの教師と学生：その意識・態度は変化したか」『IDE現代の高等教育』18号, 81-90頁。

「〈革命〉から〈アパシー〉へ：1970年代のアメリカ学生運動」『IDE現代の高等教育』185号, 54-60頁。

「Postsecondary Educationの構造と意義」『IDE現代の高等教育』179号, 49-59頁。

「無選抜入学（オープン・アドミッション）にともなう諸問題：アメリカの場合」『IDE現代の高等教育』184号, 34-40頁。

#### 1978年

「大学の国際化」森隆夫・岩下新太郎・木戸宏編『教育の国際化と教育行政』協同出版, 177-198頁。

「八〇年代を迎えるアメリカ高等教育：大学調査旅行の印象」『厚生補導』150号, 34-42頁。

- 「I. 第1次海外調査の概要（諸外国の大学における国際交流：とくにアメリカ合衆国を中心として：「大学の国際化に関する総合研究」第1次海外調査団（欧米班）報告書）」『大学研究ノート』33号，4-9頁。
- 「II. 大学における国際交流：アメリカ合衆国を中心として（諸外国の大学における国際交流：とくにアメリカ合衆国を中心として：「大学の国際化に関する総合研究」第1次海外調査団（欧米班）報告書）」『大学研究ノート』33号，12-35頁。
- 「V. 結論（諸外国の大学における国際交流：とくにアメリカ合衆国を中心として：「大学の国際化に関する総合研究」第1次海外調査団（欧米班）報告書）」『大学研究ノート』33号，53-58頁。
- 「I. 大学の国際化に関する諸問題」『大学研究ノート』32号，17-23頁。
- マーチン・トロウ著，喜多村和之訳「アメリカ高等教育の独自性：建国200年の視点から」『大学論集』6号，199-212頁。

### 1979年

- 「生涯教育と大学」『ジュリスト』689号，30-36頁。
- 「中等後教育のシステム化」研究代表者 中山茂『中等後教育システムの機能と構造に関する比較研究』8-27頁。
- 「「中等後教育」の概念について」研究代表者 中山茂『中等後教育システムの機能と構造に関する比較研究』67-82頁。
- 「無選抜入学の諸問題」研究代表者 中山茂『中等後教育システムの機能と構造に関する比較研究』130-141頁。
- 「日本における「中等後教育」の制度的構造」『大学論集』7号，21-39頁。
- 喜多村和之・天野郁夫・友田泰正・江原武一「日本の大学における外国人教員の地位と意識構造：全国調査結果の分析を中心に（中間報告）」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』31号，150-153頁。
- 「日本の大学における外国人教員：全国調査結果の報告（要約）」『IDE現代の高等教育』205号，55-60頁。
- 「中等後教育の展開方向：日本モデルの模索」『IDE現代の高等教育』196号，6-13頁。
- 「「計画」と「抑制」の時代：「高等教育」から「中等後教育」へ」『IDE現代の高等教育』199号，43-52頁。
- 「大学と図書館のあいだ」『IDE現代の高等教育』204号，24-33頁。

### 1980年

- 「教授市場の国際化」「内」開かれざれば「外」に開けず」天城勲編『世界に通用する大学』サイマル出版，168-176頁。
- 「大学の教育機能についての再検討：大学におけるTeachingの問題」『松山商大論集』31巻4号，35-51頁。
- 「諸外国の大学における外国人教授の任用：制度と実態」『大学研究ノート』47号，1-48頁。
- 「高等教育体制の段階移行論について：〈トロウ・モデル〉の再検討」『大学論集』8号，49-65頁。

「『甘えの共同体』に安住する教授と学生たち：外国人教員のみた日本の大学」『朝日ジャーナル』22巻7号，92-96頁。

喜多村和之・馬越徹・二宮皓・大塚豊・山崎博敏「日本の大学院教育にたいする留学生の評価：全国意見調査の分析から（中間報告）」『日本教育社会学会第32回大会発表要旨集録』47-50頁。

「教育」本間長世・有賀貞編著『アメリカ研究入門（第2版）』東京大学出版会，227-238頁。

「日本の大学に関する外国人教員の自由記述意見」『IDE現代の高等教育』206号，50-56頁。

「1980年代の私学政策の方向：アメリカ・ブルッキングス研究所報告から」『IDE現代の高等教育』207号，54-58頁。

「大学におけるTeachingの問題：日米比較考察」『IDE現代の高等教育』212号，50-59頁。

「ニューヨーク市立大学（CUNY）の壮大な実験：Open Admissionsがもたらしたもの：City Collegeの場合」『IDE現代の高等教育』214号，6-14頁。

### 1981年

「『中等後教育（ポスト・セコンドリー）』システムの創造」竹内宏・麻生誠編『日本の学歴社会は変わる』有斐閣，231-247頁。

「高等教育における教授法：大学の教育機能の再検討」『教育と医学』29巻10号，998-1004頁。

「『開かれた』大学と『閉ざされた』大学」『厚生補導』35-41頁。

「大学の教育機能（Teaching）再検討：学教師の意見から」『大学研究ノート』50号，15-20頁。

「高等教育におけるイノベーション：原理的・比較的考察の試み」『大学論集』10号，17-37頁。

「中等後教育のシステム化を求めて」『大学論集』9号，25-30頁。

「講義（Lecture）の方法：英米の教授法の研究から」『IDE現代の高等教育』216号，11-23頁。

「外国人留学生からみた日本の大学院評価」『IDE現代の高等教育』219号，33-39頁。

「諸外国における大学教育の評価」『IDE現代の高等教育』224号，46-53頁。

「予算カットに揺れる大学：国際比較」『IDE現代の高等教育』226号，15-23頁。

### 1982年

「高等教育の制度と機能」『教育社会学』142-159頁。

「『国際化』に直面する日本の大学教育」『大学と学生』195号，10-16頁。

「大学教育における教授と学習」『大学研究ノート』54号，15-24頁。

「大学における教育機能について：Teachingとカリキュラムに関する比較的考察」『大学論集』11号，103-122頁。

「外国人教授と留学生からみた日本の大学教育：全国調査の結果から」『日本教育社会学会第34回大会発表要旨集録』208-210頁。

「外国人教員の採用・地位の改善について—外国人教員制度の国際比較的考察」『日本比較教育学会紀要』8号，31-36頁。

「高等教育の大規模化と多様化：大学の類型と機能について」『文部時報』1263号，24-30頁。

「Book Review 市川昭午著『生涯教育の理論と構造』」『IDE現代の高等教育』232号，80-81頁。

「外からみた日本の大学と外国語教育」『IDE現代の高等教育』229号，60-65頁。

「大学の国際化を阻むもの：外国人留学生の意見」『IDE現代の高等教育』230号，38-44頁。

「大学におけるカリキュラムの位置：日米比較的考察」『IDE現代の高等教育』231号，2-12頁。

#### 1983年

「米国の大学経営に史上初の危機：80年代の生き残り戦略は？」『エコノミスト』61巻40号，76-81頁。

「【特設部会要旨】外国人からみた日本の教育：大学教育を中心に」『教育社会学研究』38号，225-230頁。

「高等教育多様化の兆し：日本・アメリカ比較の観点から」『月刊教育の森』8巻2号，110-118頁。

「アメリカにおける短期高等教育機関の動向：コミュニティ・カレッジについて」『大学と学生』210号，19-23頁。

「大学教育研究センター 10年の回顧と展望：何をなし，何をなしえなかったか」『大学研究ノート』57号，65-68頁。

「『教師の大学』と『学生の大学』のあいだ：D. Riesmanの“Student Consumerism”論をめぐる」『大学論集』12号，17-36頁。

「『高等教育文献研究会』のあゆみ」『IDE現代の高等教育』246号，50-52頁。

「1980年代のアメリカ高等教育—顧客とマーケティングの時代」『IDE現代の高等教育』239号，5-16頁。

「高等教育の未来予測—アメリカの経験から」『IDE現代の高等教育』241号，5-9頁。

「大学でいかに生き残るか？：アメリカ学生のサバイバル戦略」『IDE現代の高等教育』243号，32-38頁。

#### 1984年

「『国際化』のなかの大学(1) “任期” つきの外国人専任教授」『UP』13巻5号，7-11頁。

「『国際化』のなかの大学(2) 大学の「国際性」とその喪失」『UP』13巻7号，22-26頁。

「『国際化』のなかの大学(3) 東京大学の成立と外国人教師」『UP』13巻9号，10-13頁。

「『国際化』のなかの大学(4) 外国人教師の悲劇：バルツとハーン」『UP』13巻11号，1-7頁。

「日米欧にみる大学比較」『経営者』38号，62-67頁。

「高度産業社会と教育システム(1) 中等後教育のシステム化：これからの教育改革の方向」『技術と経済』68-82頁。

「大学評価の意義」『大学評価の研究』東京大学出版会，3-14頁。

井門富二夫・喜多村和之「教育の国際化」『大学評価の研究』東京大学出版会，139-161頁。

「Book Review 斎藤真他著『国際関係における文化交流』」『IDE現代の高等教育』250号，76-77頁。

「日本の大学における教育機能について：“教師の大学” から “学生の大学” へ」『IDE現代の高等教育』251号，40-47頁。

「高等教育の連合体の可能性」『IDE現代の高等教育』257号，23-28頁。

#### 1985年

東洋・清水康敬・喜多村和之・阿部美哉「地域教育と技術教育：アメリカ（海外の放送大学）」『MME 研究ノート：multi media education』14号，31-57頁。

- 「『国際化』のなかの大学(5)外国人教員任用法の成立」『UP』14巻1号, 16-21頁。
- 「『国際化』のなかの大学(6)外国人教員の任期の問題」『UP』14巻3号, 20-25頁。
- 「『国際化』のなかの大学(7)〔最終回〕外国人への返事」『UP』14巻5号, 27-31頁。
- 喜多村和之・有馬朗人「大学教育の国際化」『科学』55巻4号, 258-259頁。
- 「〔世界の高等教育研究の動向2〕アメリカ合衆国における高等教育研究：教育機能との関連において」『大学論集』14号, 311-328頁。
- 「バークレイだより(1) 高等教育研究センター」『IDE現代の高等教育』260号, 67-73頁。
- 「バークレイだより(2) バークレイの学生たち」『IDE現代の高等教育』261号, 81-85頁。
- 「バークレイだより(3) 授業風景」『IDE現代の高等教育』262号, 49-56頁。
- 「バークレイだより(4) 留学生活」『IDE現代の高等教育』264号, 82-88頁。
- 「バークレイだより(5) 日本, カリフォルニア比較の試み」『IDE現代の高等教育』265号, 74-80頁。
- 「バークレイだより(終回) コミュニティとしてのバークレイ」『IDE現代の高等教育』267号, 70-76頁。

#### 1986年

- 「日米大学やぶにらみ」『IDE現代の高等教育』268号, 34-41頁。
- 「アメリカ合衆国における高等教育財政」『IDE現代の高等教育』273号, 23-34頁。
- 「アメリカにおける多様化と構造変容」『IDE現代の高等教育』274号, 25-34頁。
- 「大学の教室：学自習の場」片岡徳雄編『学習と指導—教室の社会学』放送大学教育振興会, 104-112頁。
- 「教育改革の比較社会学：高等教育の改革・革新に関する比較の試み」『教育社会学研究』41号, 24-37頁。
- 「マルチバーシティ化が示す教育の未来像」本間長世監修『常識としての現代アメリカ学』PHP研究所, 148-168頁。
- 「大学の国際化」『大学論集』15号, 9-14頁。
- 「一般教育はなぜ問題とされるのか：「一般教育研究委員会報告」(1951)をめぐる考察」『大学論集』16号, 25-40頁。
- 「学生のための大学へ：米大学比較考」『大学と学生』242号, 4-10頁。
- 「シンポジウム：世界の高等教育改革を考える：アメリカの場合」『大学研究ノート』67号, 34-39頁。
- 「大学の教育機能の見直し：日米の大学改革論議から」『文部時報』1310号, 29-34頁。
- 「ニッポンの高校の「効率性」：Thomas Rohlen：Japan's High Schoolを読む」『IDE現代の高等教育』270号, 13-20頁。
- 「第I章第10節 短期高等教育の現状：まとめ」『高等教育研究紀要』6号。

#### 1987年

- 「日米教育競争時代の幕開け：カルコン・レポートにみる日米大学比較」『IDE現代の高等教育』282号, 33-40頁。
- 「一般教育はなぜ問題とされるのか：大学基準協会『大学における一般教育』をめぐって」『IDE

現代の高等教育』283号, 7-16頁。

「大学の淘汰現象に関する比較的考察」『大学論集』17号, 47-65頁。

片岡徳雄・喜多村和之・山崎博敏・角田昌子・八並光俊・須田康之「高等教育における教授=学習過程の研究(2)」, 『日本教育社会学会大会発表要旨集録』39号, 59-63頁。

喜多村和之・河野員博・小林雅之・島田博司・大膳司「高等教育機関の新設・統廃合に関する比較社会学的研究」『日本教育社会学会第39回大会発表要旨集録』178-183頁。

「第Ⅱ部第3章 最近の大学入学に関する事例：カリフォルニア大学（バークレー校）とカールトン・カレッジの場合」『高等教育研究紀要』7号, 114-122頁。

#### 1988年

「高等教育の国際化について」『JACET全国大会要綱』27号, 1-2頁。

「大学評価の可能性についての考察」『大学論集』18号, 53-74頁。

「〈提言 大学の活性化のために〉大学の活力（バイタリティ）とは何か」『大学と学生』274号, 14-15頁。

「一八歳人口の動向と私立大学：日米比較（〈特集〉私立大学）」『大学と学生』266号, 8-14頁。

「アメリカにおける高等教育研究（1）」『大学研究』1号, 111-115頁。

「なぜ「高等教育と政府の関係」を問題にするのか」『大学研究ノート』72号, 23-24頁。

「大学の淘汰現象に関する比較的考察」『大学論集』17号, 47-66頁。

片岡徳雄・喜多村和之・有本章・上原麻子・山崎博敏・須田・康之・安東由則・賀暁星・磯部良精・藤墳智一「高等教育における教授=学習過程の研究(3)」『日本教育社会学会第40回大会発表要旨集録』57-60頁。

大膳司・河野員博・小林雅之・喜多村和之「高等教育機関の淘汰に関する社会学的研究」『日本教育社会学会第40回大会発表要旨集録』196-201頁。

「高等教育と政府の関係：大学と文部省」『IDE現代の高等教育』291号, 5-15頁。

「大学PRの意味するもの」『IDE現代の高等教育』296号, 5-12頁。

「大学評価の時代：争社会アメリカにみる」『IDE現代の高等教育』298号, 5-16頁。

「第Ⅱ部第1章 アメリカの高等教育財政と大学の管理運営」『高等教育研究紀要』8号, 124-135頁。

#### 1989年

「「大学研究」は無用か？」『IDE現代の高等教育』300号, 39-45頁。

「何がアメリカの大学を強くしたか：ぬるま湯・日本にはない評価と競争」『エコノミスト』67巻9号, 79-85頁。

「教育人口変動の国際比較：高等教育の場合」『教育と情報』377号, 8-13頁。

「「大学研究」の意味：大学教育研究センターの歩みを通して」『大学論集』19号, 1-22頁。

「大学評価の可能性についての考察」『大学論集』18号, 53-74頁。

「天城勲編著『相互にみた日米教育の課題：日米教育協力研究報告書』」『大学論集』18号, 209-210頁。

「Book Review ステファン・デイルセイ著 池端次郎訳『大学史』」『IDE現代の高等教育』308

号, 60-61頁。

「“規制緩和”のもたらすもの:大学審大学教育部会の概要を読んで」『IDE現代の高等教育』309号, 27-31頁。

「第1章 “大学淘汰”の時代に直面したアメリカ高等教育:歴史と現状」『高等教育研究紀要』9号, 1-11頁。

「第Ⅲ部 第1章 大学院の成功と課題」『高等教育研究紀要』10号。

#### 1990年

「第7章 日本における「中等後教育」の制度の成立と構造」阿部美哉・金子元久編『「大学」外の高等教育:国際的動向とわが国の課題(高等教育研究叢書6号)』広島大学大学教育研究センター, 63-68頁。

「大学評価の原理と方法」広島大学大学教育研究センター編『大学評価:その必要性と可能性:第18回(1989年度)『研究員集会』の記録(高等教育研究叢書7号)』広島大学大学教育研究センター, 21-25頁。

「アメリカにおける大学設置認可と大学評価」飯島宗一・戸田修三・西原春夫編『大学設置・評価の研究』東信堂, 149-206頁。

「“国際化”思想の展開—1960年代から80年代まで」澤田昭夫・門脇厚司編『日本人の国際化』日本経済新聞, 29-47頁。

「同窓会(Alumni)の意義:アメリカの場合を中心に」『大学と学生』297号, 7-13頁。

「「大学研究」の意味:大学教育研究センターの歩みを通して」『大学論集』19号, 1-22頁。

「ステファン・ディルセイ(池端次郎訳)『大学史』」『大学論集』19号, 377-379頁。

「国際共同研究を通じての成長:OECD高等教育研究事業に参加して」『文部時報』1358号, 20-23頁。

「新刊紹介 アーサー・レヴィン著『1990年代のアメリカ高等教育:1980年代の教訓と1990年代の予測』」『IDE現代の高等教育』314号, 65-67頁。

「学生の消費者行動としての大学選択(カレッジ・チョイス)」『IDE現代の高等教育』316号, 56-62頁。

「1980年代のアメリカ高等教育:予測と実態」『高等教育研究紀要』11号, 1-12頁

「要約と結論 1990年代の国際教育交流と日本の高等教育への課題」『高等教育研究紀要』12号。

「大学の自己点検・評価とSelf-study」『IDE現代の高等教育』330号, 58-64頁。

#### 1991年

「総括コメント」広島大学大学教育研究センター編『大学評価:提案と批判:第19回(1990年度)『研究員集会』の記録(高等教育研究叢書15号)』広島大学大学教育研究センター, 97-98頁。

喜多村和之・近藤昭治・奈須紀幸・大竹康夫・濱野保樹「通信ネットワークと高等教育」『第10回大学放送教育研究シンポジウム「通信ネットワークと高等教育」「遠隔教育への衛星の活用」(放送教育研究開発センター研究報告31号)』3-37頁。

「1990年代の高等教育政策に関する比較的考察」『放送教育開発センター研究紀要』5号, 65-84頁。

「「大学評価」の展開:臨教審から大学審まで」『放送教育開発センター研究紀要』6号, 65-83頁。

- 「特別座談会《大学審議会答申をめぐって》」『IDE現代の高等教育』325号, 5-60頁。
- 「〈地方に生きる世界的学者・上〉不死身の“明日への旅人”:今堀誠二先生」『IDE現代の高等教育』327号, 62-68頁。
- 「〈地方に生きる世界的学者・中〉あるく「学人」:藤原与一先生」『IDE現代の高等教育』328号, 65-69頁。
- 「〈地方に生きる世界的学者・下〉学問の発展と継承:川村智次郎先生」『IDE現代の高等教育』329号, 70-73頁。
- 「大学の自己点検・評価とSelf-study」『IDE現代の高等教育』330号, 58-64頁。
- 「コミュニティとしての大学」『IDE現代の高等教育』324号, 35-42頁。
- 「大学設置基準の大綱化は賛成, 大学評価は慎重に:大学評価に対する学長・学部長の意見から」『IDE現代の高等教育』330号, 37-40頁。

#### 1992年

- 「学生による授業評価」『IDE現代の高等教育』332号, 18-26頁。
- 「高等教育の20年後とその後 我が国の教育の歩み:学制120年を記念して」『教育と情報』415号, 10-13頁
- 「飯島宗一『学窓雑記』I, II」『大学論集』21号, 341-342頁
- 「古くて新しい課題」広島大学大学教育研究センター編『大学教育研究センター 20年の歩み』47-50頁。

#### 1993年

- 「コミュニティとしての大学」本間長世編『アメリカ社会とコミュニティ』日本国際問題研究所, 207-224頁。
- 「役に立つ大学:人事部長が本音で選んだ新・大学ランキング」『週刊ダイヤモンド』81号, 109-124頁。
- 「大学研究の20年:大学はどこから来て, どこへ行くのか」『大学論集』22号, 1-10頁。
- 「特別座談会 自己点検・評価を考える」『短期大学教育』50号, 121-141頁。
- 「私の大学の旅 第1回 高校からマンモス大学へ」『IDE現代の高等教育』342号, 76-80頁。
- 「私の大学の旅 第2回 マスプロ講義と粋な教授」『IDE現代の高等教育』343号, 56-61頁。
- 「私の大学の旅 第3回 マンモス大学からミニ大学へ」『IDE現代の高等教育』344号, 60-66頁。
- 「私の大学の旅 第4回 大学の外から大学の中へ」『IDE現代の高等教育』345号, 65-69頁。
- 「自己点検・評価 “運動” を点検する」『IDE現代の高等教育』346号, 11-18頁。
- 「私の大学の旅 第5回 新米教師悪戦苦闘す」『IDE現代の高等教育』347号, 65-71頁。
- 「私の大学の旅 第6回 動かない大学」『IDE現代の高等教育』348号, 69-74頁。
- 「私の大学の旅 (最終回) 第7回 命を救われた大学病院」『IDE現代の高等教育』349号, 76-80頁。

#### 1994年

- 「放送教育開発センターについて」広島大学大学教育研究センター編『大学改革の動向と高等教育研究の新体制:第22回(1993年度)『研究員集会』の記録(高等教育研究叢書29号)』広島大

学大学教育研究センター, 36-39頁。

「《大学評価》の時代」『教育と情報』438号, 46-49頁。

「一言時評 新任大学職員の基本・中央依存型体質からの脱皮」『IDE現代の高等教育』358号, 57頁。

「一言時評 教育学栄えて教育減ぶ? : 効率化のための大学の大衆化」『IDE現代の高等教育』361号, 71頁。

#### 1995年

「現代の大学論」永井道雄監修『大学はどこから来たかどこへ行くのか』玉川大学出版部, 140-161頁。

「〈論文〉アメリカにおける私学振興政策：私学はどのようにサバイバルしたか」『大学と学生』366号, 14-19頁。

「座談会「授業評価はいま」」『IDE現代の高等教育』368号, 47-63頁。

「Book Review クラーク・カー著／箕輪成男・鈴木一郎訳『大学経営と社会環境』」『IDE現代の高等教育』369号, 72-73頁。

「エリック・アシュビー脚—アカデミック・マンの理想像—を悼む」『IDE現代の高等教育』370号, 78-80頁。

「大学のゆくえ」『IDE現代の高等教育』362号, 29-36頁。

「大学教育における「補習」」『IDE現代の高等教育』366号, 5-12頁。

「大学院重視政策に対する現場の意見について：全国調査から」『IDE現代の高等教育』371号, 17-24頁。

#### 1996年

「非常勤教員という存在：現状と将来」『IDE現代の高等教育』381号, 5-14頁。

「高等教育機会の展開方向」2010大学改革研究会『大学改革2010年への戦略』PHP研究所, 16-22頁。

「まえがき(大学教育の内容・方法の改善・評価に関する研究)」『放送教育開発センター 研究報告』90号, i頁。

「研究の課題と背景」『放送教育開発センター研究報告』90号, 1-2頁。

「自己点検・評価と外部評価」『放送教育開発センター研究報告』90号, 32-37頁。

「大学院重視政策に対する大学院現場の対応と意見」『放送教育開発センター研究報告』90号, 48-53頁。

喜多村和之・吉本圭一・伊藤彰浩「大学教育の内容・方法の改善・評価に関する研究—大学教育改革の現状と課題 大学教育改革の事例報告 付属資料等」『放送教育開発センター 研究報告』90号, 1-235頁。

「高等教育の未来展望」『放送教育開発センター 研究報告』91号, 324-329頁。

「大学改革の国際的動向：アメリカの世紀は続くか」『三田評論』981号, 18-24頁。

「江原武一著『大学のアメリカ・モデル：アメリカの経験と日本』」『比較教育学研究』22号, 188-189頁。

「大学教員と任期制の問題点：外国人教員の任期と大学経営の問題とに関連して」『IDE現代の高

等教育』374号, 15-21頁。

「女性の大学院生たち：男性をしのぐ日が来るか？」『IDE現代の高等教育』377号, 25-30頁。

「ミヤザキ・ヒロシ氏を偲んで」『IDE現代の高等教育』382号, 76頁。

#### 1997年

「世界状況 高等教育のグローバルゼーション 共通課題は“財政難”」『カレッジマネジメント』84号, 44-47頁。

「講演Ⅰ「高等教育改革の国際的動向と日本の大学教育」」『京都大学高等教育研究』3号, 124-127頁。

「試練にさらされる大学教授職：イギリスの大学教員ストライキ」『IDE現代の高等教育』385号, 45-52頁。

「学費は誰が負担すべきか：国際的な論争点」『IDE現代の高等教育』388号, 65-70頁。

「高等教育研究の軌跡：付・高等教育の研究・教育のための組織の設立に関する年表」『IDE現代の高等教育』392号, 8-17頁。

「現代大学の運命と早稲田大学：『早稲田大学百年史』に寄せて」『早稲田大学史記要』29号, 83-92頁。

「編集委員座談会「最近の改革提言と大学」」『IDE現代の高等教育』393号, 5-54頁

#### 1998年

「教育観は変わっているか」『エコノミスト』76巻14号, 220-221頁。

「Book Guide 21世紀の大学像を求めて今読みたい翻訳書 カーとアッシュビーの大学論を中心に」『カレッジマネジメント』90号, 59-63頁。

「Book Guide 1995年～1998年発行 高等教育最新書182冊」『カレッジマネジメント』91号, 54-58頁。

「国際的視野からみた日本の高等教育」『変貌する高等教育』岩波書店, 154-175頁。

「国立教育研究所の頁：21世紀の高等教育政策の方向」『教育と情報』481号, 48-51頁。

「何のためのキャンパス・アメニティか」『IDE現代の高等教育』399号, 5-11頁。

「グローバルゼーションと大学の「国際化」戦略」『IDE現代の高等教育』400号, 13-22頁。

「高等教育研究の現在・過去・未来」『高等教育研究』1号, 29-46頁。

「大学評価の時代と私学：大学審議会答申に関連して」『大学時報』263号, 82-87頁。

「国立試験研究機関（省庁所轄研究所）の設置根拠についての一試論：国立教育研究所の場合を中心として」『国立教育研究所研究集録』37号, 17-36頁。

「座談会「大学評価：何のための大学評価か」」『IDE現代の高等教育』401号, 5-37頁。

#### 1999年

「アメリカ合衆国における高等教育機関の新設, 統廃合, 吸収, 合併について」『21世紀に向けた高等教育機関の経営戦略：法人合併等を中心として』株式会社住信基礎研究所, 1-11頁。

「レポート 自校の価値を世間に知らせる手段でもある 大学選びに影響与える米大ランキング」『カレッジマネジメント』17号, 22-27頁。

「教育機関としての大学におけるハードとソフト」『教育と施設』66号, 50-53頁。

石川忠雄・喜多村和之「対談「21世紀の大学像」答申をめぐって」『IDE現代の高等教育』404号, 5-22頁。

「大学ランキングの時代」『IDE現代の高等教育』406号, 5-12頁。

Trow Martin, 喜多村和之訳「大学の地位と序列化の分析」『IDE現代の高等教育』406号, 57-67頁。

「「グローバリゼーション」と現代の高等教育」『IDE現代の高等教育』409号, 13-22頁。

Trow Martin, 喜多村和之訳「マス型からユニバーサル・アクセス型高等教育への移行」『高等教育研究』2号, 125-132頁。

「序章「ユニバーサル化」とは何か」『高等教育研究紀要』17号, 1-9頁。

Trow Martin, 喜多村和之訳「終章 マス高等教育の帰結：古い問題と新しい課題」『高等教育研究紀要』17号, 157-177頁。

「高等教育が直面する未来:短大が備えておくべき問題はなにか?」『短期大学教育』55号, 10-19頁。

「グローバリゼーションと大学の「国際化」戦略」『文部時報』1471号, 20-23頁。

「調査研究3 高等教育政策の形成と評価」『文部時報』1476号, 34-37頁。

## 2000年

「「21世紀の大学像」への視点」『21世紀フォーラム』政策科学研究所, 22-27頁。

「(私学高等教育研究所から01) 私学高等教育研究所の発足にあたって」『教育学術新聞 1982号 (2000.06.28)』

「(私学高等教育研究所から02) 研究所は何をしようとしているのか」『教育学術新聞 1983号 (2000.07.05)』

「(私学高等教育研究所から03) 高等教育の専門人材の育成と教育・研修をどうするか」『教育学術新聞 1984号 (2000.07.12)』

「(私学高等教育研究所から04) 国際競争にさらされる日本の大学」『教育学術新聞 1985号 (2000.07.19)』

「(アルカディア学報1) 国立大学の独法化と私学」『教育学術新聞 1986号 (2000.07.26)』

「(アルカディア学報2) 病院評価と大学評価」『教育学術新聞 1987号 (2000.08.02)』

「(アルカディア学報3) なにをどう研究するか」『教育学術新聞 1988号 (2000.08.11)』

「(アルカディア学報5) 国立大学の「独法化」は私立に何をもたらすか」『教育学術新聞 1990号 (2000.09.06)』

「(アルカディア学報6) 第三者評価機関の発足と私学」『教育学術新聞 1991号 (2000.09.13)』

「(アルカディア学報7) 大学間のヨコの連携・共同とネットワークの時代の到来か?」『教育学術新聞 1992号 (2000.09.20)』

「(アルカディア学報13) 大学評価・学位授与機構の評価実施方針を問う」『教育学術新聞 1998号 (2000.11.08)』

「(アルカディア学報14) 私学高等教育への関心強いアメリカ大学人」『教育学術新聞 1999号 (2000.11.15)』

「(アルカディア学報15) 大学ランキングの時代」『教育学術新聞 2000号 (2000.11.22)』

- 「(アルカディア学報17) 公正な研究費配分を：国立偏重から実力主義へ」『教育学術新聞 2002号 (2000.12.20)』
- 「提言」『カレッジマネジメント』100号, 38頁。
- 「提言 新たな規制や画一化にならないか：「第三者評価機関」創設に対する杞憂」『カレッジマネジメント』102号, 34-37頁。
- 「提言 国際的動向と日本 21世紀の社会が連携・協力・統合を促す」『カレッジマネジメント』105号, 32-36頁。
- 「提言 21世紀の社会が連携・協力・統合を促す—国際的動向と日本」『カレッジマネジメント』105号, 32-36頁。
- 「これからの研究開発と人材養成等の諸政策の連携・統合に関する調査研究 (中間報告)」『文部科学省科学研究費補助金 (A)』120頁。
- 「国立大学の独立行政法人化問題」『学士会会報』2000巻1号, 41-51頁。
- 「大学の設置形態に関する歴史的・比較的考察：国立大学の「独立行政法人化」問題に関連して」『研究技術計画』15巻1号, 7-12頁。
- 「第三者評価機関の意味するもの」『IDE現代の高等教育』420号, 10-15頁。
- 「「質」の保証—カリフォルニア・マスタープランの事例にふれて」『高等教育研究紀要』18号, 82-92頁。
- 阿部美哉・石弘光・喜多村和之「2000年度研究集会シンポジウム 国立大学独法化は私学に何をもたらすのか」『大学行政管理学会誌』4号, 23-47頁。
- 「大学の設置形態に関する歴史的・比較的考察：国立大学の「法人化」問題に関連して」『日本教育行政学会年報』26号, 28-39頁。
- 「座談会「2000年の重要課題」」『IDE現代の高等教育』414号, 5-61頁。

## 2001年

- 「(アルカディア学報18) 21世紀に突入した高等教育：希望と絶望の狭間の時代」『教育学術新聞 2003号 (2001.01.01)』
- 「(アルカディア学報21) 政策評価への取組みを問う」『教育学術新聞 2006号 (2001.01.24)』
- 「(アルカディア学報22) 大学に国際競争力を・科研費の配分を再考」『教育学術新聞 2007号 (2001.02.07)』
- 「(アルカディア学報25) 学生に“職業観”の育成を」『教育学術新聞 2010号 (2001.02.28)』
- 「(アルカディア学報29) 躍進するソウルの大学：ユニバーサル高等教育の行方」『教育学術新聞 2014号 (2001.04.04)』
- 「(アルカディア学報31) 重視すべきは新入生：学部教育の充実強化が基本」『教育学術新聞 2016号 (2001.04.18)』
- 「(アルカディア学報32) 国を支える学術研究：費用は誰が負担すべきか」『教育学術新聞 2017号 (2001.04.25)』
- 「(アルカディア学報33) 迫られる私大の対応：強まる高等教育「私学化」の風」『教育学術新聞

- 2018号 (2001.05.09)』
- 「(アルカディア学報44) 国際評価は公正か：自虐的な日本人の大学評価」『教育学術新聞 2029号 (2001.08.01)』
- 「(アルカディア学報45) 猶予ない私学の対応：特殊法人改革と私学助成」『教育学術新聞 2030号 (2001.08.08)』
- 「(アルカディア学報46) トップ30選別の意味：「遠山プラン」と私大政策」『教育学術新聞 2031号 (2001.08.22)』
- 「(アルカディア学報47) 学生援助と特殊法人改革：ユニバーサル時代での在り方」『教育学術新聞 2032号 (2001.09.05)』
- 「(アルカディア学報50) 欧州諸国の大学評価：実地調査にみる印象」『教育学術新聞 2035号 (2001.09.26)』
- 「(アルカディア学報52) 自己評価と第三者評価：私大はいずれの路線をとるのか」『教育学術新聞 2037号 (2001.10.10)』
- 「(アルカディア学報59) 私学から発言する時—沈黙と無関心の時代は終わった」『教育学術新聞 2044号 (2001.12.12)』
- 「(アルカディア学報60) 私高研の実績報告：緊急課題は評価システムの構築」『教育学術新聞 2045号 (2001.12.19)』
- 「世界では アメリカン・スタンダードが世界基準に広がる：専門職業人教育の質はどう評価されるか」『カレッジマネジメント』106号, 31-34頁。
- 「日本にとってのアジアの大学」『IDE現代の高等教育』430号, 5-11頁。
- 「私学化 (プライバタイゼーション)」と私学経営」『IDE現代の高等教育』433号, 5-11頁。
- 「これからの私立大学：質をめぐる競争の時代」『全人』75巻6号, 10-14頁。
- 「ユニバーサル時代の学生援助と奨学事業」『大学と学生』442号, 7-11頁。
- 「〈第1回短期集中公開研究会報告〉 大学経営人材の養成をめざして」『大学研究』22号, 33-55頁。
- 「寺崎昌男著『大学教育の創造：歴史・システム・カリキュラム』」『大学論集』31号, 240-242頁。

## 2002年

- 「高等教育におけるグローバリズム：日本の大学の国際的位置」『21世紀フォーラム』85号, 24-31頁。
- 「インタビュー プロフェッション養成の大学に求められるもの：自律的な認定基準作成のすすめ」、『Quality nursing』8巻9号, 732-736頁。
- 「大学の基盤を問い直す：世界の中の日本の高等教育」広島大学大学教育研究センター編『大学組織の再構築：第29回 (2001年度)『研究員集会』の記録 (高等教育研究叢書71号)』広島大学大学教育研究センター, 14-24頁。
- 「(アルカディア学報61) 「危機」と「好機」の時代：今こそ私学の意義を問い直す好機」『教育学術新聞 2046号 (2002.01.01)』
- 「(アルカディア学報71) 基準認定の意味と役割：米国の大学評価事業に参加して」『教育学術新

- 聞 2056号 (2002.04.03)』
- 「(アルカディア学報76) 第三者評価とは何か：中教審の中間報告への疑問」『教育学術新聞 2061号 (2002.05.15)』
- 「(アルカディア学報81) 新しい評価体制を求めて：私大協関東地区連絡協議会から」『教育学術新聞 2066号 (2002.06.26)』
- 「(アルカディア学報82) 一人歩きする評価：IMD世界競争力白書にみる」『教育学術新聞 2067号 (2002.07.03)』
- 「(アルカディア学報95) 評価関連法案の問題点：学校教育法一部改正について」『教育学術新聞 2080号 (2002.10.23)』
- 「(アルカディア学報98) 制度の根幹にかかわる法改正：気付いてみれば法律違反」『教育学術新聞 2083号 (2002.11.20)』
- 「(アルカディア学報100) 私学評価システム素案：私高研・研究プロジェクトが公表」『教育学術新聞2085号 (2002.12.05)』
- 「(アルカディア学報101) 私学評価システム素案：私高研・研究プロジェクトが公表」『教育学術新聞2086号 (2002.12.11)』
- 「(アルカディア学報102) 評価システムへの批判と注文：横山氏（日経新聞編集委員）に答える」『教育学術新聞2087号 (2002.12.18)』
- 「評価のムチと資金のアメ：政府の競争政策では大学の質が向上しない訳」『日本の論点2003年度版』616-619頁。
- 「(書評) 久保義三, 米田俊彦, 駒込武, 児美川孝一郎編 現代教育史事典」『学鏡』99巻4号, 42-45頁。
- 「政策の効用と副作用：翻弄される大学」『IDE現代の高等教育』435号, 49-52頁
- 「大学評価の日米比較：アクレディテーションの精神をめぐって」『IDE現代の高等教育』442号, 11-17頁。
- 「新制早稲田大学の規模拡大に関する歴史的・比較的考察 序説」『早稲田大学史記要』34巻号, 179-195頁。
- 「ランキングによる大学評価に代わるもの」『大学時報』51巻287号, 92-97頁。
- 濱名篤・米澤彰純・朴澤泰男・白川優治・喜多村和之「学費負担の多様化と個別化? : 18歳人口減少期における私立大学の学費・奨学金政策と課題」『日本教育社会学会第54回大会発表要旨集録』24-29頁。
- 「座談会1 大学公社案の現代的価値」永井道雄・山岸駿介編『未完の大学改革』中央公論新社, 197-216頁。
- 「座談会2 永井文部行政の遺産」永井道雄・山岸駿介編『未完の大学改革』中央公論新社, 364-383頁。
- 「「仙人と辣腕」—大学の研究組織化の先駆者 横尾莊英氏を悼む」『IDE現代の高等教育』437号, 70頁。
- 「「大教センター」の頃：「暮らしは低く、思いは高く」」広島大学大学教育研究センター編『高等

教育研究開発センター 30年の歩み』 61-63頁。

## 2003年

- 〔(アルカディア学報110) 情報こそ大学経営の死活—大学に自己研究調査スタッフを〕『教育学術新聞 2095号 (2003.03.05)』
- 〔(アルカディア学報116) 本番を迎える認証評価制度：私大協の受け入れ態勢の課題 (上)』『教育学術新聞 2101号 (2003.04.23)』
- 〔(アルカディア学報117) 本番を迎える認証評価制度：私大協の受け入れ態勢の課題 (下)』『教育学術新聞 2102号 (2003.05.07)』
- 〔(アルカディア学報124) 信なくば立たず：認証評価制度は実施できるのか』『教育学術新聞 2109号 (2003.06.25)』
- 〔(アルカディア学報128) 政官の論理VS大学の論理：認証評価制度に試行・実験の期間を』『教育学術新聞 2113号 (2003.07.23)』
- 〔(アルカディア学報136) 医療と教育を考える：学生のための大学と患者本位の病院』『教育学術新聞 2121号 (2003.10.08)』
- 〔(アルカディア学報141) 省令：なぜ遅れているか 文科省の認証のための省令』『教育学術新聞 2126号 (2003.11.26)』
- 〔(アルカディア学報142) 特色ある大学教育支援 プログラムへの提案：「教育のための科研費制度」の新設を』『教育学術新聞 2127号 (2003.12.03)』
- 〔解説 私大協の研究委託を受けて素案を発表「私学評価システム」に関する基本的な考え方』『カレッジマネジメント』 21巻1号, 57-61頁。
- 〔押し寄せる自由化と市場化の波を学校法人はどう受け止めればいいのか』『カレッジマネジメント』 21巻3号, 30-33頁。
- 〔日本における大学評価政策の形成と立法過程』『教育社会学研究』 72号, 53-71頁。
- 〔私大行政の転換と今後の私大政策の課題』『IDE現代の高等教育』 448号, 11-16頁。
- 〔巻頭言 IDE50年・高等教育研究所25年』『IDE現代の高等教育』 451号, 2-4頁。
- 〔[2003年] 4月1日・大学FD (Faculty Development) 講演会より抄録 大学評価のシナリオ』『全人』 77巻7号, 10-15頁。
- 〔高等教育改革：国立大学と私学との関係をめぐって (特集 これからの教育改革)』『都市問題研究』 55巻11号, 18-37頁。

## 2004年

- 〔(アルカディア学報148) 特別連載 高等教育改革 国大と私大の関係をめぐって (1)』『教育学術新聞 2134号 (2004.2.4)』
- 〔(アルカディア学報149) 特別連載 高等教育改革 国大と私大の関係をめぐって (2)』『教育学術新聞 2135号 (2004.2.11)』
- 〔(アルカディア学報150) 特別連載 高等教育改革 国大と私大の関係をめぐって (3)』『教育学術新聞 2136号 (2004.2.18)』

- 〔(アルカディア学報151) 特別連載 高等教育改革 国大と私大の関係をめぐって (4)〕『教育学術新聞 2137号 (2004.2.25)』
- 〔(アルカディア学報152) 特別連載 高等教育改革 国大と私大の関係をめぐって (5)〕『教育学術新聞 2138号 (2004.3.3)』
- 〔(アルカディア学報153) 特別連載 高等教育改革 国大と私大の関係をめぐって (6)〕『教育学術新聞 2139号 (2004.3.10)』
- 〔大学研究の拠点(21) 私学高等教育研究所〕『IDE現代の高等教育』457号, 64-66頁。
- 〔クラーク・カー死す〕『IDE現代の高等教育』457号, 72-73頁。
- 喜多村和之・白川優治「私立学校法改正に対して私立大学はどう対応すべきか」『IDE現代の高等教育』459号, 11-16頁。
- 〔天城勲会長に聞く：高等教育行政とIDEの活動〕『業績と回顧：IDE50周年・高等教育研究所25周年記念誌』55-85頁。

## 外国語著書・論文

- Kitamura, K., & Commings, W. K. (1972). The “Big Bang” Theory and Japanese University Reform, *Comparative Education Review*, 16(2).
- Nagai, M., & Kitamura, K. (1972). Die Hochschulprobleme Japans, *Studentische Politik*.
- Shinbori, M., & Kitamura, K. (Eds.) (1972). Higher Education and Student Problem in Japan, *K.B.S. Bibliography*, University of Tokyo Press.
- IMHE Project Team (1976). Japanese Patterns of Institutional Management in Higher Education: A Final Report on the IMHE Project, Research Institute for Higher Education, Hiroshima University.
- Kitamura, K., & Tomoda, Y. (1977). Patterns of Decision - Making in Japanese Higher Education International, *Journal of Institutional Management in Higher Education*, 1(1).
- Commings, W. K., Amano, I., & Kitamura, K. (1979). Mass Higher Education, in *Changes in the Japanese Universities - A Comparative Perspective*, Prager.
- Kitamura, K. (1980). In Search for a System of Postsecondary Education, *RIHE International Seminar Reports*, 2.
- Kitamura, K. (1981). The Internationalization of Higher Education - A Final Summary Report.
- Kitamura, K. (1981). Innovations in Higher Education - Issues, Definitions, and Japanese Experience, *Innovations in Higher Education - Reports of the Hiroshima/OECD Meeting of Experts and the Seminar on Innovations in Higher Education*, Research Institute for Higher Education, Hiroshima University.
- Kitamura, K. (1983). The “Internationalization” of Higher Education in Japan, *RIHE International Seminar Reports*, 4.
- Kitamura, K. (1983). The Internationalization of Higher Education in Japan, *Japan Foundation Newsletters*, VII(6).

- Kitamura,K. (1985). New Implications for the Educational Function of the Japanese University, *RIHE International Seminar Reports*, 5.
- Kitamura,K. (1986). The Decline and Reform of Higher Education in Japan:A Comparative Perspective, *Educational Policies in Crisis*, Prager.
- Kitamura,K. (1987). Curriculum and Teaching at Japanese Universities - New Implications, *Proceedings of the Korean Council for University Education*.
- Kitamura,K. (1987). Keynote Report by the RIHE, *Public and Private Sectors in Asian Higher Education Systems - Issues and Prospects - (Reports from the Third International Seminar on Higher Education in Asia)*, *RIHE International Seminar Reports*, 7.
- Kitamura,K.(1988).Keynote Report by the RIHE, *The Role of Government in Asian Higher Education Systems - Issues and Prospects - (Report from the Fourth International Seminar On Higher Education in Asia)*, *RIHE International Seminar Reports*, 8.
- Kitamura,K. (1989). The Future of Japanese Higher Education, *RIHE Working Papers*, 1.
- Kitamura,K. (1991). L'avenir de l'enseignement superieur an Japan, *Sociologie du Travail*, 1.
- Kitamura, K.(1991). Higher Education in Japan. In P. G. Altbach,(Ed.), *International Higher Education- An Encyclopedia*, Garland Publishing.
- Kitamura, K.(1991).The Future of Japanese Higher Education, *Windows on Japanese Education*. London: Greenwood Press.
- Kitamura, K.(1996). A Cooperative View of Developments, Issues, and Policy Approach in Education - A Report of the Reviews Project for OECD, National Institute for Educational Research.
- Kitamura, K. (1997). Policy Issues in Japanese Higher Education, *Higher Education*, 34.

「年譜」「研究業績一覧」は、2014年4月26日にとりおこなわれた「喜多村先生を偲ぶ会」で配布された資料に基づき一部書式を変更してとりまとめたものである。

この資料の作成者は以下のとおりである。苑復傑，沖清豪，金子元久，喜多村直之，白川優治，杉谷祐美子，高野篤子，森利枝，吉田文。(五十音順)